

今回の取材を通して、少ない人数で新聞作成を回す工夫や、生徒を楽しませるため努力を学んだ。私達も錦城生にもっと楽しんでもらえる新聞を作っていきたい。戸山高校新聞部のみなさま、ありがとうございました。(月)

「怒りを買い」といって誤った意味を選んだ人が52.6%と、驚くべきことに誤った意味の方がマジョリティーなのである。おそらく「逆鱗に触れる」という言葉と混同してしまっているのだろう▼かくいう私も、「失笑」は「笑いも出ないほどあきれれる」と言う意味だと思っていた。正しくは「こらえきれず笑ってしまうこと」だが、文化庁の平成23年度「国語に関する世論調査」では後者の誤用が82.7%で、こちらでも、すでに本来の意味の方が少数派だ▼確かに言葉は時代と共に変化する。古文で習う「おろかなり」は「いい加減だ」という意味だが、今では「愚かだ」という意味に転じている。多くの人が使うようになれば、それが正解になることは多いのだろう▼それでも本来の意味で言葉を使うことに価値があると思う。「琴線に触れる」は感動する心情を、琴の糸が震え、美しい音色を奏でることに喩えている（令和5年度版「広辞苑」より）。感動する物事に触れ、心の奥の琴線がそっと震える情景は、とても美しい。本来の意味で用いることで、言葉がもつ繊細な情感を相手に伝えることができると思う。これから記事を書くときも、言葉一つ一つに向き合い、誰かの琴線に触れるような言葉を使いたい。

（袖）

一騎当千 6人の選手たち

2025 秋季球技大会 MVP 特集

女子バレーボール 光石朱里さん(3L) | 男子バレーボール 池上精悟さん(2C)



女子バレーボールのMVPに輝いたのは、正確なサブやレシーブでチームを優勝に導いた光石朱里さん(3L)。「ラリーが長く続いていて、すぐに決めきれない場面が多く、体力的にも精神的にもキツかったです」と決勝試合を振り返った。どんな練習をしていたか尋ねたところ、「普段から学校外で友達とバレーをやっていて、球技大会前はレシーブをメインにゲーム形式で練習していました」と答えてくれた。

試合では、自分が気持ちに左右されがちな分、チームメイトと積極的にコミュニケーションをとるように心がけたという光石さん。クラスメイトの応援も、大きな力になったという。「自分の試合と被って応援に行けないことも多かったけど、決勝戦はお互いに応援できてよかった。クラスのみんなの応援のおかげで頑張れました、本当にありがとう」と感謝の言葉を送った。(紬)



男子バレーボールでクラスを見事優勝に導いたMVPの池上精悟さん(2C)は「春の球技大会で3Bと決勝で戦って負けてしまったので、今回は勝ててうれしかった」と感想を語ってくれた。印象に残っている試合は、初戦で戦った2Bとの試合。相手が初めからスパイクを何度も打ってきて、ブレッシャーがかかり、2セット目は取られてしまったが、3セット目は気を引き締めてなんとか勝つことが出来たと振り返る。

また、試合中は楽しむことを意識していたそうだ。決勝戦が始まる前には、3Bの選手とネット越しに『決勝だからみんな熱くなるけど、楽しむことを意識してやろう』と話した。クラスやチームのメンバーへは「2年C組の人が応援してくれたおかげで優勝できたので、感謝しています。メンバーも練習に向き合ってくれていたのも優勝に繋がったと思います」と笑顔でコメントしてくれた。(蓮)

女子バスケットボール 涌井千咲子さん(2H) | 男子バスケットボール 後藤優槻さん(3K)

女子バスケットボールのMVPに輝いた涌井千咲子さん(2H)。MVPとなった感想について、「夏の球技大会では3Iに負けてしまい悔しかったため、今度は勝つことができてうれしかったです。さらに、それに貢献できてよかったです」と語ってくれた。ディフェンスで自分のマークをすぐ見つけることや、パスカットしたらすぐに前に走るなど基礎的なことを中心として練習。また、夏の大会ではファールを多くしてしまい退場者も出てしまったため、いかにファールを無くすかを意識したらしい。クラス一丸となってバスケを応援してくれたことにありがたかったそうだ。



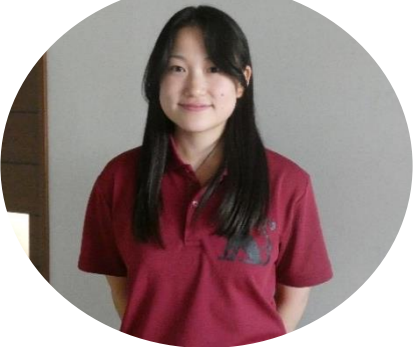
1年に向けて、「球技大会は勝ち負けははっきりして楽しいだけではないが、クラス全員が一丸となって協力してやると楽しくいい思い出となりますよ」と述べてくれた。(蒲)



「たくさんの人の応援が力になりました」と話してくれたのは男子バスケットボールでMVPに選ばれた後藤優槻さん(3K)。後藤さんは印象に残った試合を準決勝で当たった3Lだったと語る。「3Lは自分のクラスと同じ進学文系で隣のクラスでもあり、球技大会に向けての練習も合同でやっていたのでライバル意識がありました」と話してくれた。

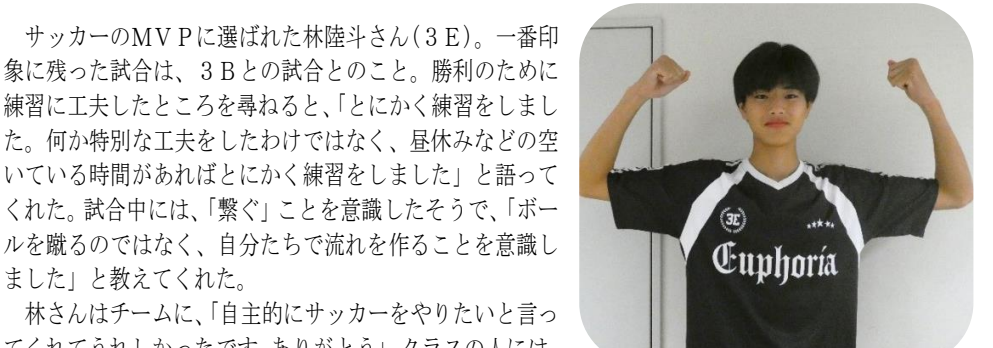
3Lとの試合では、チームメイトがパスカットでシュートを決めたことによって試合の流れが変わり、勝利を収めることができたと話した後藤さん。3Kはバスケットボールの経験者がおらず、皆初心者状態だったという。普段の練習について「シュートを確実に決められるように、シュート練習を意識して練習しました」と話してくれた。また後藤さんは共に戦ってくれたクラスメイトに向けて、「自分たちの学年が最後のイベントのなかで、男子バスケットボールを応援してくれてありがとうございました」と感謝の言葉を送った。(燕)

ドッジボール 茨木なごみさん(3K) | サッカー 林陸斗さん(3E)



ドッジボールで晴れてMVPに輝いたのは茨木なごみさん(3K)。今回初優勝を果たしたことについて、実感が湧かないところもあるけれども「素直に嬉しいです」と感想を語った。終始「チームの皆のおかげです」と話す茨木さん。チーム内にボールを投げるのが得意な人がたくさんいたそうで、そのクラスメイトたちとパスをつなが練習や速い球を投げる練習をしたという。また、相手チームの内野をコート中央のラインへ追い詰めて、最後に味方の内野が相手にボールを当てる作戦があったそうで、本番では見事成功していた。

最も印象に残っている試合は決勝で、最後まで内野が2人残り、タイムアップで勝利したこと、逃げられる人がいることは大切だと話した。実は今大会、不安から始まったという茨木さん。チームメイトが「みんなで一緒に頑張ろう!」と呼びかけてくれたそうで、おかげで最後まで楽しめたと顔を綻ばせた。皆がMVPだと話し、「感謝しかないです」とチームメイトへの感謝を述べた。(藤)



サッカーのMVPに選ばれた林陸斗さん(3E)。一番印象に残った試合は、3Bとの試合とのこと。勝利のために練習に工夫したところを尋ねると、「とにかく練習をしました。何か特別な工夫をしたわけではなく、昼休みなどの空いている時間があればとにかく練習をしました」と語ってくれた。試合中には、「繋ぐ」ことを意識したそうで、「ボールを蹴るのではなく、自分たちで流れを作ること意識しました」と教えてくれた。

林さんはチームに、「自主的にサッカーをやりたいと言ってくれてうれしかったです。ありがとう」、クラスの人には、「声を出して応援してくれたから、チーム含めて、気持ちを高められました。ありがとうございました」と感謝を述べた。今回MVPに選ばれた感想を聞くと、「自分だけの力ではなく、MVPはみんなで、チーム全員での勝利だと思っています」と試合を振り返った。(月)

「ミスもあったが成功できました」

球大実行委員長振り返り

球技大会委員長の村山颯斗さん(2G)に、今回の球技大会についての感想を聞いた。「初めて委員長を務めた球技大会だったので、不安もあったが成功してよかったです」と話し、「思い出に残るもの



次回への意気込みを語る

になりました」と振り返った。

大変だった点は、各競技の試合が終わるごとに行うデータ入力に忙しかったことだと言い、最終結果のデータにミスがあったことが反省点だという。その他の運営はミスも無く上手にいったそうで、やりがいがあったと話す村山さん。球大実行委員の仲間に向け「次も頑張らしましょう」と呼びかけた。

最後に錦城生に向け「球技大会はみんな楽しみにしていると思うので、次も成功できるよう頑張ります」とメッセージを送った。(梟)

仲間との絆を武器に



ボールを奪い合う



写真で球大を振り返る

球技大会グラフィティ

陰で支える審判



応援の声が飛び交う中で



先生方とガチンコバトル!